

尼崎市スポーツ推進審議会 議事概要
(平成 28 年度第 1 回会議)

- 1 開催日時 平成 28 年 7 月 7 日 (金) 午後 2 時 55 分～午後 4 時 10 分
- 2 委員出席状況 出席委員 7 人 欠席委員 3 人
- 3 傍聴者 なし

4 議事概要

- 議題 (1) 尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)の取組状況について
(2) 平成 29 年度の取組について

配付資料：尼崎市スポーツ推進計画 実績及び評価

平成 29 年度の取組について

- 参考 1 各世代等に対するスポーツ実施率向上に向けた取組の例
参考 2 それぞれの取組の考え方

事務局 1 件目、尼崎市スポーツ推進計画(後期計画)の取組状況について。

まず、子ども青少年について、「スポーツのまち尼崎」促進事業の観戦者数は平成 27 年度は誘致大会数の減により、前年度の参加者数を下回ったが、1 大会あたりの平均観戦者数は 27% の大幅増である。ただ、総数としては、まだ目標を割り込んでいる状況にあり、今後、大会増加を含めて取組みたい。市民スポーツ祭・市長旗大会については、各大会とも前年度の参加人数を上回っている。生涯スポーツサービスシステム月例行事については、概ね前年度並みの参加者数を確保した。さらに、健康づくり教室については、これまで受講者数が減少傾向であったが、市民ニーズに応じた見直し等により、平成 27 年度は、ほぼ前年度実績を維持した。尼崎市民マラソン大会については、平成 23 年度に有料化して以降、参加者数は激減していたが、その後、PR により参加者数は増加、ただ、平成 26 年度台風によるコース損傷のため中止し、27 年度は実施したが、参加者数は再び減少に転じた。平成 28 年度は、尼崎市市制 100 周年記念あまがすきハーフマラソンを実施するため、市民マラソンは休止する。このハーフマラソンの経験を活かし、コース変更など、参加者増加に向けて検討したい。最後に、子どもたちの体力づくりモデル事業はスポーツ振興事業団に委託し、小学校のこどもクラブ 2～3 クラブを選び、年に 10 回の指導をしきたが、効果に繋がらないため、平成 27 年度をもって終了、平成 28 年度以降については、体育館等管理運営事業のスポーツの取組に転換することにより、子どもたちの体力向上に努めたい。

働く世代については、市民スポーツ祭をはじめ、それぞれの事業のなかで参加者の増加を目指すとともに、「親子」を切口とした新たな取組によって、働く世代の方々の運動スポーツの機会の確保に努めたい。

高齢者について、さわやか地域スポーツ活動はスポーツ推進委員の活躍もあり、参加者は増加傾向に、スポーツ要請指導は、減少傾向だが、平成 27 年度については、下げ止まりが伺える。今後とも市報や市のホームページ等の広報を取り組むことにより、事業の認知度を高め、参加者を増やし、より多くの市民に、スポーツやレクリエーション活動の機会と場を提供したい。

障害者については、スポーツ振興事業団において平成 26 年度から障害者専用のスポーツプラザとして地区体育館の一般開放を実施し、また、障害者向けのスポーツ教室の取組を開始して、一定の利用がある。またそれと共に、社会体育施設のバリアフリー化や障害者用運動用具の整備などを行っている。引き続き、スポーツ振興事業団の取組と連携するなかで、障害者スポーツの普及・振興に努めたい。

女性については、親子を切口とした取組を継続することによって、より運動・スポーツに取り組みやすい環境を提供し、女性の運動・スポーツの機会の確保に努めたい。

スポーツクラブ 21 は、学校開放事業運営の地域への移行において、その運営主体の候補者だが、地域学校協働本部の取組を視野に入れた取組を考えていることから、活動の実績などを踏まえながら、地域コミュニティの活性化につなげていきたい。

それからスポーツ振興団体は、スポーツリーダー講習会事業を実施することにより指導者の育成に努め、体育協会などとも協議しながら、引き続き競技力の向上に取組みたい。次年度事業については、スポーツ振興事業団と平成 29 年度事業の取組について、すでに意見交換を始めており、今年度は、他の団体とも同様に意見交換を行いたい。

スポーツ施設は、総合体育館で実施しているトレーニング指導の利用時間延長や地区体育館及び屋内プールの一般開放を障害者にも対象を広げるなどの取組により、増加傾向にある。市民の健康づくり・体力づくりの促進が図られていると考える。学校開放事業は、平成 22 年度に比べると利用人数は減少しているが、1 校あたりの利用人数では横ばいで、取組が一定の成果を挙げたと考えている。地域スポーツの拠点として、できるだけ多くの市民に利用いただけるよう、さらに利用者拡大のために工夫を行いたい。

最後に、スポーツの情報に関して、これまでインターネットによる情報発信に努めてきたが、今後は紙媒体等による情報発信について検討を進めたい。

委員 「尼崎市市制 100 周年記念あまがすきハーフマラソン」について、応募やボランティア・スタッフの状況はどうか。

事務局 順調に応募があり、時点で 8,000 人を超えている。各コースとも目標数に到達しそうである。

ボランティアについては、各民間企業に依頼し、会社ごとにまとめて協力をいただく予定である。教育委員会は、競技運営を担当し、走路員等については体育協会あるいはレクリエーション協会、スポーツ推進委員会へボランティアを依頼する。

委員 ハーフマラソンは大きなイベントであり、次年度への弾みにもなると思うので、是非成功させていただきたい。

事務局 2 件目、平成 29 年度の取組について。

平成 29 年度の取組については、スポーツ実施率のを向上を図るため、これまで、あるいは現在、運動・スポーツを実施していない市民に、運動・スポーツを実施してもらう必要があると考える。平成 29 年度については、新たなテーマを設定するのではなく、これまでの取組の実績を踏まえて重点的に取り組むこととしている、働く世代及び女性のスポーツ実施率の向上、子どもの体力向上を中心として、充実させたい。

委員 働く世代女性に対する事業はどれくらいの人に参加しているか。

事務局 例えば、「パパママのためのリフレッシュ体操」はサルーススイミングスクールに子どもの付き添いで来ている保護者に向けて、ストレッチや簡単なヨガなどでできればと企画をしたが、5 月時点まででは利用がなかった。今回、親子・働く世代の女性に対する事業がすべてうまくいくと思っているわけではないが、受講者を呼ぶ手段として、子どもが来る時に保護者も来るので、そこでスポーツをと考えた。取り組み方など今後考えていきながら、よりスポーツに関わってもらえるような方法を考えたい。

委員 例年、全国的な新体力テストがあるが、子どもに対する事業で尼崎市のレベルアップを図るような事業は考えられないか。

事務局 直接、その新体力テストであがっている種目について練習をするなどというような事業ではなく、まずは運動する機会を作ることを目的とした事業をしている。

新体力テストで尼崎市が兵庫県の平均値に追いつくことは、なかなか達成できていない状況なので、運動をするということをまず取り組み、新体力テストの結果にも結びついていけばと考えている。

委員 さかあがり教室など、1回だけでできるようになるには少し難しいと思う。1回の講習ではなく、複数回実施できないものか。

委員 スポーツの成功体験は、子どもの時期にとって非常に重要である。自己肯定感にも繋がり、できるようになるかならないかが、その後のスポーツの活動の大きな分かれ道になるため、丁寧に進めないといけない。

1回の単発事業ではなく、継続的に実施する事業が、今後、考えられるとよいと考える。

委員 昔は、1回の受講が動機付けになり、その後、公園へ行ったり、親や近所の子ども会の若い親が教えてくれたりした。今は遊ぶ場所も子ども会も少なくなり、そういう機会が減少している。親が熱心な家庭の子どもは、体操やバレーボールをしているが、余裕のない家庭の子どもは自分たちだけではできない。だから子どもたちは、自転車に乗ってうろうろして、涼しい大型量販店で何をするでもなしに店内にいるのではないか。体育だけではなく、勉強も、小さな時から足を擦りむいたり、こけて怪我をしたりしながらも続けるという体験活動がないので、難しいのではないかと考える。

委員 昔と環境が変わり、学校だけとか家庭だけとか、どこかひとつだけで完結してできるようになることは難しいので、連動できる環境を作ることが重要であると考え。

以上